

8 月



新潟観光ナビより



あの日のあの川 リレー日記 ～第 81 話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどの川でどんなことをした記憶がありますか？ 幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第 81 話主人公 亀谷礁冴

(筑波大学大学院 システム情報学研究科 構造エネルギー工学専攻 白川（直）研究室『川と人』ゼミ)

(□川ガール・■川系男子)

(出身地を流れる川：千葉県利根川)

「川からするのは冒険の香り」

いつのこと？： 小学校中高学年

どの川？： 新潟県関川

こんにちは。遠藤君からバトンを受け取りました、白川研究室所属の亀谷です。「あの日のあの川リレー日記」ということで、「日記」にも書いたことのある思い出に残っている川のお話をさせていただこうと思います。

私がこの文章を書いているのは 8 月で、暑さもピークを迎える時期なのですが、小学生の時のこの時期は親戚家族と集まって少し長めの家族旅行に行くのが恒例行事でした。旅行先は毎年変わるのですが、一時期何年か続けて行ったのが新潟県妙高市、関川に近い場所でした。私の家族は結構アクティブでして、旅行に行くと川に入る、山に登る、海に行くなどと結構ワイルドな計画ばかりだったのを今でも思い出します。

妙高での楽しみの一つが、川遊び。近くを流れる「関川」へ足を運び、網で生き物をとったり、川に石を投げたり、川に入ったり。ただの自然一つで、当時は一生遊べると思えるくらいに楽しんだものです。

関川には、日本の滝百選にもなっている「苗名滝（なえなたき）」があります。近くの駐車場に車を止めて、川沿いに山を抜けると現れるその滝は、荘厳で美しく、神秘的。先にも書いたとおり、何年か続けていった妙高でしたが、行くたびにその滝を目指して冒険を繰り返したのを覚えています。

滝にたどり着くまでの道中も小学生だった当時の私にはワクワクの連続。おかしな形の木を見つけたり、キノコを探しながら歩いたり。ある年には川岸に何かの動物の骨が流れ着いているのを見つけたりもしました。しかも結構大きな背骨の部分。小学生というのは恐ろしいもので、当時の私はその骨を素手で拾い上げて「何の動物だろう？」と観察していました。衛生面などを考えると絶対にまねしてはいけませんね。

滝が見えてくるところには木々が生い茂った周囲もかなり開けてきます。足元も木の根と土だったのが大きな岩がゴロゴロとしたまさに「川の上流」といった具合になります。苗名滝はかなり滝つぼに近い所まで近づけるのですが、それが小学生の冒険心に火をつけます。大きな岩の上を飛び移り、限界まで滝に近付き、その大自然の迫力を間近で感じました。滝の見た目の迫力をさることながら、よりすごいのはその音。隣にいる人の声がまるで聞こえません。水しぶきもすさまじく、川に入っていないというのに服がびしょ濡れになるほどでした。録画を回していたビデオカメラが壊れて動かなくなるほどに。

近年の夏はとても暑いので、皆さんも川に赴きその清涼感に身を投じてみてはいかがでしょうか。当時の私のように童心に帰り大自然を冒険するのもいいかもしれません。川の冒険は危険も多いですが、その危険性をしっかりと知っておけば楽しい思い出になること間違いなしです。これを機に私もまた苗名滝へ冒険に出かけようと思います。

（次は菊池恭士朗さんにバトンを託します）